



TITLE:

京大広報 No. 61

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 61. 京大広報 1971, 61: 222-222

ISSUE DATE:

1971-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209634>

RIGHT:

京大広報

No. 61

京都大学広報委員会

月曜会メモ

第94回(9.6) 司会 高橋幹二会員

会員の交替について：9月1日付，経済研究所
森口親司会員より佐和隆光助教授に交替。

報告事項：なし

議題1：前回からの継続事項である「財団法人
京都大学学術出版会（仮称）設立のための調査機
関の設置」について，配布された資料について呼
びかけ人の説明を聞いた後，意見を交換した。一
般論としては，このような出版会を設立すること
についてとくに反対の意見はなかった。しかし，
事業内容，財政等について問題も多いと考えられ
るので，調査機関を設けてさらに詳細に検討する
必要があろう，というのが大方の意見であった。
なお，「この種の問題にはとくに多くの教官の熱
意が必要である」，また，「調査機関を設けると
して，もちろん大学当局の援助，助成は必要であ
るが，まず非公式なものとして出発し，かなり先
行的な作業を進めてもよいのではないか」などの
意見があった。

議題2：「京都大学における改革問題」を討議
対象とした。配布された資料は，①中教審答申
（昭46. 6. 11），②国大協運営協議会報告書（昭
46. 6）であったが，そのほかに大検委第1部会の
「大学の任務」に関する討論内容も参照された。

このうちとくに論議の集中した，大検委第1部
会の考え方については，「大学の理念問題につい
て避けることなく取組んだことを評価する。早い
機会に公開して全学的討議の対象としてはどうか
」，との意見があった。またその内容について
は，「研究と教育とのうちで研究に重点があり過

ぎはしないか。研究の価値判断の尺度として有用
性以外のものがあるとしてもよいのではないか」，「研
究と教育との相互関係についての議論ではなく，
その一体性のようなものがより強く主張されてよ
いのではないか」，「全体として旧制大学的発想
が濃く，全国的な大学の現状に必ずしも対応して
いないのではないか。たとえば大学の大衆化など
への視点が欠けている」，などの意見があった。

次回予定：大学改革問題についての，次回から
の月曜会の討論の方向は，「京都大学として，制
度上あるいは運用上，具体的に改革すべき点があ
るとすれば何か」を中心とすべきことが確認さ
れ，まずその例として「大学大衆化に対して京都
大学はどう対処するか」，および教授，助教授の
差別をなくした「1講座1教授の新講座制（国大
協報告書 P.42）をどう考えるか」，について討論
することになった。（高橋幹二会員）

学生部長の交替について

浅井健次郎前学生部長は，9月30日 辞任され
た。その後任として川又良也教授（法学部・商法
専攻）が10月1日付で新学生部長に発令された。